

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101914		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名	あいの里 1階		
所在地	和歌山市相坂651-3		
自己評価作成日	平成30年5月3日	評価結果市町村受理日	平成30年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JirvosyoCd=3070101914-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは、地域に向けた施設、地域と共に支えていける施設を目標としています。同法人のデイサービスセンターや小規模多機能型事業所が隣接し、日常的に交流が深く、行事の際は地域の方々とともに賑やかに行われています。地域住民に理解して頂くことが出来るよう、自治会長、民生委員、小、中学校、幼稚園との交流を重視しています。日常の介護においても、本人の自己決定を大切にして、入所の方が日常生活にストレスを抱えることなく安心して日々を過ごせるよう支援しています。本人、家族が施設内で看取りを希望される場合については、本人、家族、医療機関、事業所スタッフと話し合い積極的に受け入れ態勢をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基に「自分らしく過ごす あいの里」「笑顔あふれる あなたが主役」とのユニット毎の理念を掲げ、利用者が持っている力を引き出し活かした生活への支援を心がけています。日々の掃除機掛けや洗濯物たたみ、台所で職員と一緒に調理に携わったり、育てている花や野菜の世話や収穫など、利用者の生活歴などの背景を知り日々の暮らしに取り入れながらその人らしく笑顔で過ごせるよう支援に努めています。長く勤務する職員も多く、利用者や家族と馴染みの関係を築くと共に、管理者を始め施設長や副施設長は職員が意見を出し相談しやすい関係作りや職場環境を整え、利用者本位の支援ができるように取り組んでいます。また利用者の重度化が進む中、終末期については家族の意向を尊重し確認しながら医師や看護師と連携を図りホームでできる支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「自分らしく生きるあいの里」として、個人々の個性を大切に職員間も和を持って協力し合い日々実践している。	開所時に法人理念を踏まえ其々のユニット毎に自分らしく過ごす事や笑顔を大切にする事等の思いを込めて作られた理念を継続し、各フロアに法人理念と共に掲示しています。利用者がその人らしく得意な事や好きな事が出来ているかや職員が笑顔を意識する事で利用者の笑顔に繋がっているかなど、日々のケアを考える中で理念に立ち戻り実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小、中学校が近くにあり登下校の姿をみる事ができる。田園地帯にあり近所の人々の働いているのを見て挨拶をし、四季の移り変わりを感ずることができる。	自治会に加入し自治会館で行われる展示会に利用者の作品を出展し見学に行ったり、神社の祭りや餅拾いなどへ出かけています。散歩やゴミ出しの際に出会った方や登下校の子ども達と挨拶を交しています。併設施設合同の秋祭りは地域の方の参加や子ども達がダンスを披露したり、小中学生がボランティアや落語などの披露に訪れた時は一緒に参加し交流を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の慰問を受け、また正月、祭りには神社へお参りをして地域の人々と交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1ヶ月の利用者の近況報告や催し物の開催報告をして会議で話し合い結果を事業所で検討しサービス向上に活かしている。	会議は家族や地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加の下隔月に開催し、利用者の状況や行事、事故などの報告を行い意見交換をしています。職員不足などのその時々々のホームの課題を相談したり、地域の高齢者問題など法人全体としての地域へ向けた取り組みなどを話し合い、地域の高齢者にトレーニングできる場所やマシンを提供するなどの取り組みに繋がっており、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、地域包括センターと連携を取りケアサービスしていく上でのトラブルや実践について報告し、助言して頂く事で行政との透明化を図っている。	分からないことがある場合は随時役所へ出向いたり電話で相談しアドバイスをしています。法人を通して研修案内が届いており、実践者研修やリーダー研修など必要に応じて参加し情報交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどういう事であるか具体的に説明し、研修にも参加し報告することによって、身体拘束をしないケアをおこなっている。昼間玄関には鍵をかけず、人の出入りをチャイムで知らせるようにしている。	年に1度、全職員に向けて身体拘束に関する研修を行い、会議の中でも利用者の行動について思いを考え、行動を止めず一緒に付き添うよう伝えていきます。また認知症を理解することが大切と考えており、ケア会議などで職員の理解が深まるよう伝えていきます。夜間以外は出入り口の施錠は行わず、利用者が自由に行動し過ごせるよう見守っています。	

あいの里 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加し報告会を開催して職員に虐待防止の徹底を図っている。防犯カメラを設置し虐待防止に役立っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に積極的に参加して、職員間で制度について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、契約書・重要事項説明書・事業所の方針について説明を行い、理解・納得した上で契約をしている。改正時には、変更の同意書に署名・捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時、意見を聞き取り、又苦情箱も設置している。家族会や行事があるときに話し合う機会をもっている。	外出や散歩など日々の利用者の希望にはその都度対応するよう心がけています。家族の意見は面会時に利用者の様子を伝える中で聞いたり、行事などの来訪時や年に1度の家族会などで聞いています。口腔ケアについて意見が出された際は医師に診てもらおうと共に職員の日頃の取り組みを伝えるなど、家族の意見は真摯に受け取りその都度理解が得られるよう対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の声に耳を傾けケア会議で話し合い、さらに管理者会議で提案して、運営に反映させている。	月に1度のユニット会議は全職員が発言し出席できない職員は事前に書面で意見を提出しています。排泄介助に関する意見や歩行訓練などのケアに関する意見が出され、統一したケアの提供に繋がっています。管理者は職員の様子を見ながら随時声をかけ、話を聞いたり相談に乗っています。また理事長や施設長は会議に出席したり、ホームに来ることも多く、日頃から意見を出しやすい雰囲気を大切にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幹部が各事業所を巡回し職員と話す機会を持ち、個々の考えや重いを聞き状態把握につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修も多く受講し、研修した職員は施設内部研修にて発表、報告し自己研鑽に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、同業者との交流を図り情報交換を行っている。他施設の良いところを取り入れグループ内の支援に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とよく話し合い、意向を聞き取りここで生活が楽しくなるように計画をたて、安心して生活できるようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、や支援してほしい事等をよく聞き取りサービス導入時に計画に盛り込んでいく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今何を必要としているか、優先順位を考え、まず必要としている問題から取り組むようにし、他事業所での慰問の参加や、外出もできるようサービス計画を立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる範囲内で料理の手伝いや食材の買い物について行ってもらうようになっている。洗濯物を干したり畳んだりと色々手伝ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密にとり本人を支えていく上で協力していける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を訪問してくれる人には職員も気持ちよく接し、居室での会話を楽しんでもらっている。	友人や元同僚、近所に住んでいた方などの来訪時は居室に椅子やお茶などを準備しゆっくり過ごせるよう配慮をしています。自宅近辺へのドライブや馴染みのスーパーでの買い物、農業をしていた方とミカンを見に行くなど利用者の生活歴などの把握に努めながら馴染みの支援に繋がっています。また家族と共に親族などの集まる冠婚葬祭や墓参りなどに行く方には身支度などの出かける準備を支援しています。	

あいの里 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話をしながら日常生活の手伝いや体操レクリエーションに参加できるような支援をおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も施設を訪問してくれ、家族から感謝の言葉を頂いている。近況を聞き変わりなく過ごされている事に安心する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を先ず聞き希望がかなえられるか否かを見分け、少しでも要求に答えられるように努めたい。	入居時に本人や家族から聞き取った意向や担当していたケアマネジャーなどから得られた入居に至る経緯などの情報をアセスメントにまとめ職員間で共有しています。入居当初は利用者に関わる中で本人の様子や気づいた事、必要と思われるケアについて全職員が書面で提出した内容を集約し意向の把握に繋げています。また本人の興味や好きな事などの得た情報は日々の記録やアセスメントにまとめ意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	皆さん独自の生活をしていた方達なので全員ががまとまる事は、むづかしいと思うが本人の個性を生かしながら交えるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式等を取り入れて一人一人の出来る事又好きなことをに挑戦してほしい事等話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、職員は利用者の暮らしのシートを各自書き、会議で話し合いニーズを抽出している。又家族、本人とは良く話を聞き意向を取り入れ介護計画の作成に当たっている。	アセスメントを行い、本人や来訪時などに確認した家族の意向を基に担当者会議を開き、職員間で必要な支援を話し合い介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングを行い変化のない場合は6ヶ月毎に介護計画を評価し見直しています。必要に応じて往診時に確認した医師や訪問看護師の意見を反映させています。また日々介護記録の中で計画の実施状況を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の間で声掛けの申し送りノートを利用して情報の共有をして個々の気づきやニーズの変化等を話し合いニーズの変化があればその都度見直している。		

あいの里 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、状態に応じて通院、病院までの送迎を行っている。体調急変があった場合は、医療を受けることができるよう柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のコミュニティセンター、図書館を利用したり、美容院から訪問美容に来てくれたり、地域住民とともに支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の希望を聞き、施設の協力医か以前のかかりつけ医の継続かを決めてもらい対応している。緊急時に専門医の受診が出来ない場合職員が付き添い、状態を説明し対応している。	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることを伝えています。協力医がかかりつけ医の方も多く現在は全員が協力医の往診を月2回受けています。急な体調変化時は往診医や訪問看護師に連絡し指示を受け対応したり、必要に応じて往診を受けています。また専門医を家族と受診する際にも必ず職員が付き添い状況を説明しています。必要に応じて歯科や皮膚科、整形などの往診を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護ステーションの看護師により、健康状態の確認や助言、対応等を行っている。職員が状況等を説明しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連絡室と連絡を密にとり入退院の連絡や入院時の本人の情報交換をし、病院関係者との関係づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時終末期についても話し、家族の希望を聞いている。本人の状態に変化がある時は主治医から家族に説明して家族の判断にて看取りを希望される。事業所が対応可能な場合には看取りケア同意書を交わす。法人より看取りに関する指針がある。	入居時に希望があれば終末期支援を行うことを伝え、終末期を迎えた際には改めて指針を基にホームの対応などを説明し意向を再確認し、治療を望む場合は病院を紹介しています。医療が関わらない場合はホームで支援し、家族の面会を増やしてもらったり、職員は医師や訪問看護師などと連携を図りアドバイスをもらいながらホームでできる看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時は救急車の手配、職員の確保等マニュアルを作成して明示している。応急処置や初期対応の訓練もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力依頼し、年2回入居者と共に避難訓練を独自に行っている。地域の方にも協力してもらえるようにつとめている。消火器や消火用散水栓の点検も行っている。水害時は迅速に判断し入居者を2階へ避難してもらう。	年に2回昼夜を想定した訓練を法人全体で行い、1度は消防署の立ち会いを得ています。訓練ではベランダへの避難誘導や水消火器の使用などを実践し、地域の方の参加も得ています。法人内で災害時の協力体制を整えると共に備蓄や備品についても法人が管理しています。また法人として災害時地域の方を受け入れることになっており、地域との協力関係を築いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに配慮して排泄、入浴、更衣時等、援助が必要な時も本人を尊重して行っている。職員同士も声かけに配慮することを注意合っている	接遇やマナーに関する研修を全職員が受講し、会議の中では人生の先輩として丁寧な言葉遣いをするよう伝えると共に、信頼関係を築くことを大切にしています。方言も交え自然な会話を心がけ、苗字での声掛けを基本に呼ばれ慣れた呼称など家族とも相談しながら呼び方を決めています。また排泄介助時の声掛けに配慮したり、不適切な対応にはその場で注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が行えるように、その人に合わせた声かけを行なうよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態、混乱、不穏状態等を常に職員間で話し合い、よりよい状態で過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用されヘアスタイルも本人の希望を聞き、カットして頂けるようにしています。衣服等もTPOに合わせて職員と一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理ができる利用者と一緒に食事をつくってもらったり、盛り付け、配膳、片付け等もできる方に手伝ってもらっている。	旬の物や在庫の食材を見たり、肉や魚が重ならないように配慮し、利用者にも相談しながら献立を決めています。利用者は台所に立ち職員と調理したり食器拭き等のできることに携わり、職員と共に談笑し食事を摂っています。また庭で収穫した野菜が食卓に上がったたり、ぬか漬けなどを教わりながら漬けています。お節料理や巻き寿司、バーベキューなどの行事食や豪華な弁当を注文することもあり、食事を楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の状態や力に応じて、声かけをしたり食事介助を行っています。水分量もその都度確認し、一日の摂取量を把握している。		

あいの里 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時は行っているが、昼食後は徹底されていないこともある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表チェック表を記入し、その人に合ったパターンで声掛けしトイレ誘導している。	排泄記録を基に一人ひとりのリズムを把握し立位や座位が可能な方は体調に配慮しトイレで排泄ができるよう支援をしています。夜間は睡眠を優先する方やトイレに行く方もおり個々に合わせたり、尿量を加味した排泄用品の選択など家族にも相談しながら検討しています。おむつを使用して退院してきた時には歩行の安定と共にほとんどの方が排泄状況が改善しており、自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には毎日ヨーグルトをだすようにしたり、繊維質の多い食材を使うこともこころがけている。手引きにての歩行や体操等もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞いて、体調を考えながら希望に沿えるよう入浴してもらっている。湯温にもきをつけている。	入浴は週に3~4回を目安に午前中から夕方の時間帯に支援することを基本とし、毎日入浴する方や過去には職員のシフトを変更し夜間入浴に対応したこともあり、できる限り希望に添うようにしています。入浴を断る方はほとんどなく坪庭の花を眺め、季節の柚子湯や入浴剤を使用しゆっくり入浴できるよう支援をしています。また重度の方も負担が少なく入れる機械浴を設置しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人々でお昼寝の時間を設けている。体力のある人は昼寝をしないで夜間ぐっすり眠れるよう配慮している。体調の優れない人には居室での食事提供もおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人が確実に薬を服用できるように飲み込むまで見届け困難な人には形態を変えて、プリン、ヨーグルトに混ぜて服薬して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カーテンの開閉、新聞の取り入れ洗濯物干し、畳み等出来ることを各人に頼んでいる。又お誕生会の開催、慰問への参加をし生活に潤いをもたしている。		

あいの里 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やゴミ捨て等に同行してもらおう。又気分転換に散歩をし季節の移り変わりを感じてもらい、歩行の強化にもつながっていくよう支援している。	気候の良い時期は近隣の散歩や広い庭に出てお茶を飲んだり、花や野菜の世話や収穫などの他、日々のゴミ出しなども利用者と一緒にを行っています。季節の花や果樹園などがある公園に行ったり、ドライブを兼ねてマリーナシティや黒潮市場などの観光地に出かけています。また地域の図書館や神社の祭りに行ったり、買い物や喫茶店などの外出の機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにならないように利用者はお金は持っていません。欲しい物があるときは家族に連絡して了解を得、立て替えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し電話の対応ができる時間帯にはいつでもかけられるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は入居者一人一人の体感温度が違うのでその人に合わせて、膝掛け上衣等で工夫している。大きな窓があり芝生や立木のある中庭から季節を感じられるようになっている。	共用空間は行事の写真や利用者と手作りした季節に応じた作品などを飾り季節を感じて過ごせるよう配慮をしています。広いリビングにはソファを置き畳のスペースでは横になる利用者もあり、思い思いの場所で寛げるよう空間作りをしています。また利用者が孤立しないよう座席の配置にも配慮をしています。日々関われる利用者と共に掃除を行い清潔な空間を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でテレビを観られたり、ソファで新聞を読まれたり中庭で入居同士が話しをされたりくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用されていた、タンスや鏡台、家族の写真を持ってきて頂き、安心して生活して頂けるようにしている。	各居室にはトイレや洗面台、床頭台などが備え付けられ、馴染みの物は何でも持ってきてもらうよう伝えてあります。利用者には使い慣れた筆筒や鏡台などの家具を持ってきてもらい、安心できる人形やぬいぐるみ、若い頃の写真や自身で作った作品などを飾りその人らしい居室となるよう配慮をしています。また自宅での生活習慣に合わせて床に布団を敷き休む利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の横に名札をいれ本人が自分の部屋と確認できるようわかりやすくしている。洗濯物畳み、干し、食器洗い食事の用意、配膳等生活全般を職員と共にする事で安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		